



ペルーと日本で培ったバランスのとれた知識や経験を活かして2つの文化の架け橋となる仕事をしていきたい。

プロフィール

日系ペルー人。11歳の時に家族と共に来日。中学校までは日本で教育を受け、高校と専門学校はペルーに帰国。その後、再来日し龍谷大学留学生別科で1年間の課程を修了。

現在、大学や語学学校等でスペイン語の講師をするとともに様々な場面で通訳として活躍。また、ペルーの民族舞踊を披露するなど、日本とペルーの文化交流に貢献。今後も更に活動範囲を広げ、新しいことに挑戦したいと考えている。

まず日本に来られたきっかけについて話していただけませんか。

父も母も日系ペルー人で、11歳の時に家族で来日しました。その頃、ペルーではテロの問題などがあって、多くのペルー人が海外に一時的に移り住むようになりました。初めの3カ月ほどは関東にいましたが、その後親戚のいる滋賀県に引っ越してきました。

その時の日本の印象はいかがでしたか？

テレビや雑誌で見た日本はとても現代的なところだという印象がありましたが、滋賀県に来てみると自然がいっぱいあって驚きました。ペルーではいろんな色の車が走ってすごくカラフルなのに、日本で見かける乗用車の色は白とかグレーとかが多いのが印象的でした。

日本語がとてもおじょうずですが、勉強は日本に来てから始められたのですか。

来日した時はまったく話せませんでした。祖母は話しますが、両親はまったく日本語を話しませんし、ペルーにいた時は日本語をはじめ食事や習慣なども含めて家の中に日本のものがなかったですね。昔、ペルーで日本語が禁止されていた時代がありましたので、ペルーの日系の人はほとんど日本語が話せません。

日本語が話せないままこちらの小学校に入学されて、とまどいはありませんでしたか。

私はペルーの小学校を卒業してから来日したのですが、日本の小学校でもう一度6年生の授業を受けました。実は最初の3カ月は1年生と一っしょに勉強しました。とてもはさしかかったし、その後もしばらくは言葉がほとんどわからなくてほんとうに辛い思いをしました。15年前は、滋賀県ではまだ外国人がめずらしくて、先生たちもどう教えていいかわからなかったのだと思います。

給食も最初は食べられませんでした。先生に「これから日本で暮らすのだから、食べられるようにしたほうがいい」と言われました。

現在はどんな活動をなさっていますか。

京都や滋賀県内にある語学学校でスペイン語を教えているほか、市役所やハローワークなどで通訳の仕事をしています。日本に来るペルー人の多くは、残念ながら日本語が話せないため、役所などの手続きがうまくできなったり、いろいろとトラブルが起こります。私は子どもの頃から両親といっしょに役所に行き、手続きなどをする時に通訳をしていましたので、その経験を活かして仕事探しやさまざまな行政手続きをお手伝いしています。

仕事以外に、小学校や公民館でペルーの国や文化について紹介する活動もしています。日本ではペルーがどこにあるか、何語を話しているかといったことも知らない人が多いですね。私は小さい頃からペルーの伝統的なダンスを習っていたので、ペルーについてお話をした後は、フォルクローレ(民俗音楽)を流して、子どもたちといっしょに簡単なダンスを踊ったりすることもあります。

日本の暮らしにうまく溶け込みながらも、ペルー人としての考え方や文化的な背景をしっかりとっておられますね。

私たちの家族は、日本に来てからも家の中ではスペイン語で会話しましたし、食事や習慣などペルーの文化をとても大切に守っていました。

私は、日本で中学を卒業した後、単身ペルーに帰国してペルーの高校と専門学校に入学しました。その後また日本に来て、行ったり来たりを繰り返しましたので、日本語も話せるようになって日本の生活スタイルにも慣れましたが、ペルー人としてのアイデンティティも失わずに両方のバランスをうまく保つことができました。

私の場合は幸いうまくいきましたが、日本で暮らすこと、特に子どもを育てるには難しい問題がたくさんあります。日本の生活スタイルになじんでしまって、特に子どもたちは、スペイン語を忘れてしまうケースが多いんです。2年前に両親は2人の弟を連れてペルーに帰国しましたが、教育に費用がかかることや弟たちの将来を考えての選択でした。

日本に暮らしておられて、生活しにくいと感じられたところ、逆にペルーでやりにくいと思われたことはありますか。

日本に来た当時、両親は1日中働いていました。私は4歳の妹と2人で留守番をして、食事の仕度をして両親の帰りを待つという生活でした。ペルーでは朝食も家族そろって食べて、夕食はみんなで食卓を囲んでゆっくり時間をかけて食べます。ペルー人は家族で過ごす時間をとても大切にしますが、日本では家族で過ごす時間が少ないことをとても悲しく思いました。

逆にペルーに帰ると、車の運転がとても乱暴で、ルールを守らなかつたりする人が多いので、ストレスを感じますね。それに約束の時間に遅れてくるとか、日本人に比べるとルーズなところがあります。

ペルーと日本、両方の文化をバランスよく合わせ持っておられるわけですが、これからそれをどのように発信していこうと考えておられますか？

これからも機会があればペルーのことを紹介していきたいと思います。今まではペルーの文化を伝えることだけでしたが、アルパカとかセラミック、銀製品のようなペルーの優れた商品も日本に紹介していきたいし、いつかは輸出入のような仕事もできればいいと考えています。

最後に、滋賀のみなさんに何かメッセージをお願いできますか。

これから、ますます多くの外国人が滋賀県を訪れたり、移り住んだりするようになると、さまざまな国の違った文化を持つ人々との「共生」ということが、とても大切になってくると思います。

最近、市役所などにスペイン語やポルトガル語の案内や書類が置かれたり、週に1、2回通訳が窓口での手続きなどを助けてくれるようになりましたが*、もう少し回数を増やしたり、外国人が仕事の後などに日本語を習える教室を開設するなど、外国人をサポートするサービスをもっと充実させていくことが必要になると思います。

スペイン語やポルトガル語を習いたいという日本人も、以前に比べると増えてきています。これはとてもうれしいことです。お互いに興味を持って、接していく中から、外国人や異なる文化への理解が生まれてくるのではないのでしょうか。

*通訳、相談窓口サービスは市町によって異なります。県内一覧は協会HPをご覧ください。